

低温・降雪に対する農作物等の管理について

平成22年4月16日
農業技術課

1 水 稲

地域によっては種の最盛期を迎えている。寒暖差が大きいと出芽が不揃いとなるほか、ムレ苗等の障害が発生しやすいため、保温シート等による床内温度の低下を防ぐとともに、日中の換気に留意して適温管理を徹底する。

2 果 樹（果樹の結実確保に関する作業の徹底について）

- (1) 受粉樹の花蕾採取に際しては、花器の形態を良く観察し、開葯直前の充実した葯を有する花蕾を採取する。
- (2) 受粉前に必ず花粉発芽率調査を行い、発芽率が30%以下の場合は代替りの花粉を確保する。
- (3) 低温の影響と思われるめしべの退化などの異常がみられるので、人工受粉する際は、めしべが正常であることを確認して、正常な花に受粉する。
- (4) 人工受粉は、柱頭への花粉付着量が多くなるよう梵天を用いて丁寧に行い、花粉散布器などの利用は避ける。
- (5) 既に受粉作業を終わらせた園地で使用した花粉に発芽率が低い等の不安がある場合は、目標とする花以外の花も含め再度人工受粉を行う。
- (6) 人工受粉後3時間以上経過しての降雨は結実への影響が少ないので、天候の推移を勘案して作業を実施する。但し、受粉後2時間以内に降雨があった場合は天候の回復後、再度人工受粉を実施する。
- (7) 日本なしでは、受粉後3時間の温度が15以上となるような条件で人工受粉する。受粉後3時間以内に低温になると結実率が低下する。
- (8) 開花期に数日間低温が続くことが予想される場合は、（結実率の低下の可能性はあるが）人工受粉を行い、気温上昇後に再度人工受粉を行う。
- (9) 降雨後の人工受粉時には、棚を揺する、樹を揺する、スピードブレイヤーで送風するなどして積極的に花を乾かし、作業に取りかかる。
- (10) 湿った梵天を花粉貯蔵容器に入れると花粉の活性が低下するので、こまめに新しい乾いた梵天に取り替える。
- (11) その他、人工受粉についての一般的な注意事項を徹底する。

3 降雪による施設倒壊等の防止、停電対策について

- (1) 野菜や花き類等の無加温ハウスでは、積雪が多い場合には雪の払い落としを行なう。必要に応じて中柱、筋カイなどで補強を行なう。
- (2) 加温設備があるハウスでは、15以上に加温温度を上げてスムーズに融雪を進める。
- (3) 畜舎や菌茸培養室等、関連施設全般に電線への着雪、断線等による急な停電に備えて、自家発電機の用意が望ましい。